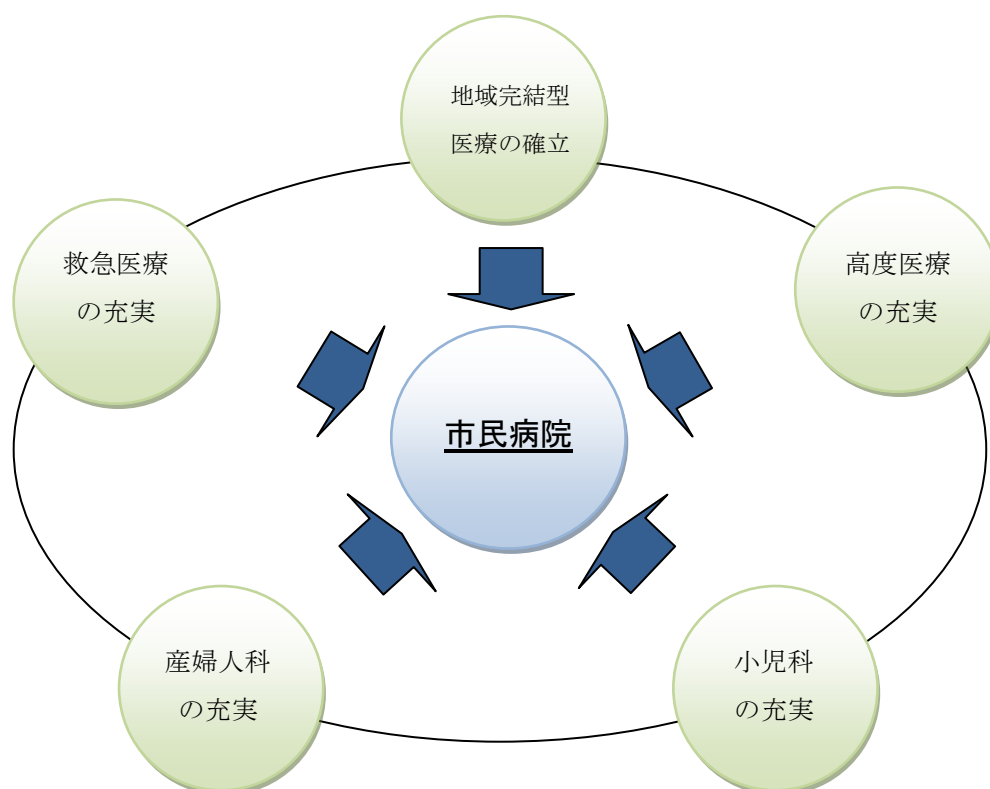


V 市民病院の役割

1 市民が望む役割

千歳市が「千歳市新長期総合計画」の基本計画の検証、見直しを行うにあたり、市民のまちづくりや市政全般に対する評価、意向を把握し、今後の施策推進の参考とするために平成17年6月に実施した「千歳市民まちづくりアンケート」の結果では、医療・病院に対する要望として、「産婦人科の充実」、「小児科医師の増員」、「市民病院が主となる24時間救急体制の確立」、「高度医療の充実」など、小児、周産期、救急及び高度医療の充実を望む意見が寄せられており、当該医療にかかる市民の期待を表しています。

また、千歳市の患者受療動向では、入院、外来とも地元医療機関への受療率が高くなっており、地元の医療機関において診療を完結したいという市民の意向が強いと考えられることに加え、複数の疾患を抱え多くの診療科による治療が必要な患者に対応するため、幅広い医療の提供を行う体制の構築が求められます。



2 市民病院が果たすべき役割

現在、市民病院は市内最大の救急告示病院として、千歳市の夜間・休日における1次・2次救急医療の一翼を担っており、平成19年度には入院、外来を合わせ市内全救急患者数の38.4%に当たる7,369人の患者を受け入れています。特に、小児科では平日の18時から21時の1次救急及びその後の2次救急を単独で行っているほか、循環器科と脳神経外科においては年間を通じてほぼ毎日2次救急に対応するなど、手術や入院が必要な重症患者の対応を中心に千歳市の救急医療体制の確保において重要な役割を担っています。

また、千歳市は市民の平均年齢が39.4歳（平成17年国勢調査）と北海道一若く、年間出生数が1,000件前後あるなか、現在、市内で分娩を取り扱う医療機関は市民病院のみとなっており、平成19年度には市内出生数の約40%に当たる397件の分娩を行ったほか、小児科の入院施設を備え小児・周産期医療を担う市内唯一の病院として、地域医療機関と連携を図りながら入院4,305人、外来22,376人の小児患者を受け入れるなど、安心して子供を生み育てられるよう千歳市の小児・周産期医療の中核的な役割を果たしています。

さらに、今日の医療技術の進歩や医療ニーズの高度化・多様化に対応するため、高度医療機器の整備を行うとともに高度な技術と知識を持つ医療スタッフの確保を図っています。

また、地元の医療機関において診療の完結を望む住民や複数の疾患を抱える患者に対して専門的な医療を幅広く提供するため診療科目の充実を図るとともに、だれもが病状に応じた適切な医療を受けられるよう地域医療機関との機能分担と連携体制の強化を図り、地域の医療水準の向上を図りながら、地域完結型医療の確立を目指しています。

このほか、地震等の自然災害や大規模火災の発生などに対応するため、救護活動と一体的な医療提供体制の確立を図り、災害時医療拠点の機能を担うこととなっています。

千歳・恵庭圏は、将来的にも患者数の増加が見込まれるものの、医療施設数や医療従事者数は全道を下回っており、当圏域における市民病院の役割はますます大きくなるものと考えられます。今後も一層地域の実情や住民の要請に応え救急医療、小児・周産期医療、高度医療など政策医療を着実に実施するなど、地域の基幹病院としての役割を果たしていきます。

公立病院としての役割

- ・不採算、特殊医療（救急、小児・周産期、災害など）
- ・高度、先進医療
- ・医師派遣機能
- ・医療、保健、福祉の連携
- ・へき地医療

市民が望む役割

- ・地域完結型医療の確立
- ・救急医療の充実
- ・産婦人科の充実
- ・高度医療
- ・小児科の充実

市民病院が果たすべき役割

1. 地域完結型医療
2. 救急医療
3. 高度医療
4. 小児・周産期医療
5. 災害医療
6. へき地医療